

**講座名： 言語と文化コース(中国語)**

**日 程： 2025年4月～2026年1月(全24回)**

**講 師： 塩出 浩和 (国際人文学部国際文化学科)  
李 穎清 (国際人文学部国際交流学科)**

### 1年生

中国語を習得しようとする日本語母語話者にとって難しいのは発音です。そのため、声調や日本語にない子音・母音の説明と練習に時間をかけました。その後、挨拶・自己紹介・数字・天気・・・などの勉強に進みました。1年間で、ショッピング・交通機関利用・道案内・趣味・将来計画などの簡単な話ができるようになりました。一方で、中国の言語は非常に多様で56の民族(人口の92%を占める漢民族とチワン族・ウイグル族・モンゴル族・チベット族・朝鮮族など55の少数民族)の多くが自分たち民族の言葉を持っていること、香港特別行政区では英語と中国語(広東語)、マカオ特別行政区ではポルトガル語と中国語(広東語)が公用語であること、漢民族でも五大方言の間では口語が相互に通じないこと(例えば上海語で「私は上海人」は「アラサヘニン」、同じことを標準中国語では「ヤーメンシャンハイジェン」、しかしながら公的な場面では北方方言を基礎とした標準中国語(普通話)が通じる、中国大陸と台湾・香港・マカオでは漢字の正書体が異なることなど言語に関わる諸事情についても学びました。

言葉の学習だけでなく、季節ごとの行事や風習、歴史に基づく古事成語、地方や少数民族の食事の話題から、結婚式の多様な様式などについて話しました。受講者の中には本学大学院の中国人留学生との間で中国語・日本語の交換学習を始めた方もいます。新しい言葉を学ぶ楽しさが伝えられたと感じています。(国際文化学科 塩出浩和)

### 2年生

2年次では、1年次の学習内容を土台とし、中国語の発音練習を継続しながら、より実践的な日常会話表現の習得を目指しました。日本人学習者にとって特に難しいとされる子音の「r, zh, ch, sh」や母音の「e」、そして四声(声調)の違いについて、発音方法を改めて確認したうえで、繰り返し練習を行い、正確な発音の定着を図りました。

授業は教科書に沿って進め、1年次に学んだ内容を適宜復習しながら、「趣味についての雑談」「旅行の計画」「病院」「トラブル対応」「ホテル」「約束」など、日常生活で頻繁に遭遇する場面で使用する表現を学習しました。

各課では、まず新出単語と関連する文法項目を説明し、その理解を確認するため、受講者に実際に単語や文法を用いて中国語の文を作り、口頭で発表していただきました。続いて、教科書の会話文を音読し、日本語への翻訳を行うことで理解度を確認しました。誤訳や分かりにくい点については、日本語表現と比較しながら丁寧に解説しました。

また、教科書に掲載されている表現が、実際の中国語使用場面と異なる場合には、中国人の実際の

言い方やニュアンスを紹介し、より自然で実用的な表現を身につけていただきました。授業のまとめとして、学んだ単語や表現に加え、教科書の拡張表現を活用し、ペアでオリジナルの会話文を作成・発表していただきました。受講者の皆さんは、日常の具体的な場面を想像しながら、実用性が高く、工夫に富んだ会話を作成しており、教科書にない語彙も多く使われるなど、互いに刺激を受ける良い学びの機会となりました。

さらに、中国語および中国人の行動様式をより客観的に理解していただくため、日本語と中国語の表現を比較しながら授業を行いました。例えば、日本語に多く見られる「いただきます」「ご馳走様でした」「行ってきます」といった定型表現は、中国語には直接対応する表現が存在しません。こうした場面で中国人がどのような言葉を使い、またはどのような行動をとるのかを具体的に紹介することで、辞書や文法書の説明にとどまらず、その背景にある思考様式を理解することの重要性を伝えました。

加えて、中国映画（日本語字幕付き）の鑑賞や、本学の中国人留学生との交流の機会を設け、中国語および中国文化への理解をより一層深めました。これらの取り組みを通じて、受講者は中国語を「知識」として学ぶだけでなく、実際に使える言語として身につけることができました。

（国際人文学部 李穎清）

### 講義・留学生との交流会の様子



【お問合せ】  
城西国際大学 社会連携課  
Mail: clics-jim@jiu.ac.jp  
TEL: 0475-55-7685